

.....草量と草質向上のために.....

青刈燕麥も混播で！

近藤 隆

生草を自然のままの形で家畜に給与することは、栄養的に全く損失がなく、また乾草やサイレーシ製造の手数および費用が少く、比較的集約経済的に利用できるものとして、家畜飼養上最も好ましいものであります。

従つて年間通じてできるだけ青刈類を連続給与することが望ましく、飼料の経済的な面からあるいは家畜の健康上、生産費低下のためにも十分検討を要する問題であります。以下暖地においては早春に、また東北、北海道のような積雪地帯においては初夏の青刈りとして最も有利と思われる青刈燕麥について、その飼料価値、混播、栽培法など、参考まで若干述べてみたいと思います。

一 青刈燕麥の有利性

(良質で集約飼料生産の期待できるのが青刈燕麥です)

青刈燕麥は収量が多く、質が軟かで、しかも生育日数が短いので、暖地では秋播きとして初冬から早春にかけて青刈類の欠乏時に利用でき、寒地においては牧草類の一

番と二番刈の間(六月下旬〜七月中旬)に一時青刈の欠乏する時期に用いられ、共に初冬から初夏にかけて青刈類の継ぎ目として大いに役立つているものであり、旺盛な再生力と利用期間の長いことから夏作の青刈り玉蜀黍

以上に普及利用されてきておりま

す。青刈燕麥は荖葉が軟かく、葉身部が多いため家畜の嗜好性が良好であり、収量、飼料価の点からみ

ても、青刈用麦類の中でも最良のものといわれております。生育時期によつて成分に若干の変化はありますが、青刈燕麥はデントコーンに比較して粗蛋白質、粗脂肪の含量が多く(第一表)禾本科飼料作物のうち



青刈燕麥と豌豆、イタリアンライグラス混播の刈取り状況

でも特に優秀なものであります。また青刈燕麥の蛋白質は消化が甚だ良好であるため、飼料として価値高いものであります。第二表は青刈燕麥とデントコーンとの飼料価生産量を比較したもので、この表に示す通り反当り収量はデントコーンが優つていますが、一日当りの収量はデントコーンに比し多くなつており、集約飼料生産に好適のものであります。また飼料価の生産量も一日当りの粗蛋白質、粗脂肪共にデントコーンの二〜三倍の養分が得られることから、青刈りとして給与する場合、より集約的な自給飼料生産としては、デントコーンより有利でありましょう。

しかしこの集約飼料生産に好適する青刈燕麥もさらに細部にわたつて検討を重ねますと幾つかの不満足な点を見出すことができます。すなわち飼料価値の面では青刈燕麥を適期に刈取つても、蛋白質を多量に含有している葉部の枯死が多くなつたり、総収量に対して葉量が極めて少いため粗蛋白質の量が葦科の作物、例えばベッチ如きものより四〜五割減となり、その他、カルシウムにおいても約五〜六割劣り、飼料生産上、量的にも質的にも不利であるこ

中見たま、
駐ソタよ、
あそんまらま

農産物の自由市場

商工業は国営と 暫定的の公私合弁

中国の産業組織は農業は合作社と国营農場、商工業は国営が建前であるが、中小商工業は公私合弁の合作社も亦少くない。農業合作社の作付は自由であるが、米、麦、綿と搾油作物の大豆、落花生、亜麻等は統制作物で、政府の割当てに従つて出荷せなければならぬ。農業合作社の地域内には個人の私経済でも自由に作る事の出来る自留田という田畑が認められている。この自留田は合作社総面積の十分の一が限度で、その生産物は自由市場が認められているから、そこへ自由に販売することが出来る。従つて開というものがなく極めて明るい。豚は私経済に属するものではあるが、食品会社から注文されたものは、必ず出荷せなければならぬ。食品会社は、その集荷を確保するために、前渡金を渡し、出荷成績の良いものには賞金を出している。評判がよく、農民に歓迎されている。豚は毎戸大てい二頭は飼育し(仔豚の育成)一頭は自家用、一頭は供出用である。しかし商工業は農業とは大に趣を異にしている。往年のように街頭に苦力の姿を見られるようなことはないし、工場労働者は地位も待遇も向上して、往年の比ではないが、経営は全く国営で、農民のような自主性はない。経営は国、従業員はすべて職工

とは疑う余地がなく、土壤維持からみると禾本科作物は土地から養分を吸収することが多く、地力の培養には不適當で跡地を瘠させる欠点を持つものであります。この欠陥を補つてくれるものに荳科や禾本科作物の混播があります。

二 青刈燕麦混播の有利性

(一) 蛋白含量を高め、土壤を肥沃にするために荳科の混播を

以上のように青刈燕麦の蛋白質の不足には、莖葉が多くまた多量に蛋白質、カルシウムを含んでいる荳科の作物との混播が理想的であります。荳科のうちでも、豌豆、ベッチ、タンジャビーなど蔓性のものは、生長力が旺盛で収量も極めて多く、ある程度生長すれば、良く混播の他作物に纏絡しつつ生長するものであります。この豌豆、ベッチなども単作する時は倒伏をきたし、下葉が腐敗したり、刈取りに困難をきたすことが多いものです。燕麦と混播した場合は、燕麦が支柱となつてベッチの倒伏を防ぎ、燕麦が出穂して生育が弱まつてからもよく開花しつつ、両作物の地上部をうづめるなど、空間を最も有効に利用し、燕麦の多収とベッチの蛋白質が調和して合理的な青刈飼料となるのであります。またベッチは燕麦によつて早春発芽当初の寒さや風から保護され、さらに燕麦の浅根とベッチの深根によつて養分の配分が有利に行われ、刈取後は緑肥としての効果も顕著なものであるなど、多くの利点をもつものであります。

(二) 多くの葉を得、土壤有機質を増すために一年性禾本科牧草の混播を

一年性禾本科牧草の中でも早春最も早く生育するイタリアンライグラスとの混播は葉部が多く、また耐陰性も強いので、青刈燕麦の混播相手として利用され、共に栄養価を増大させ併せて量の増加を計るものとして役立つものである。またイタリアンライグラスは地上部収量以上に膨大な根群を有して、土壤に豊富な有機質を与え耕土改良に役立ちます。

青刈燕麦と青刈豌豆、イタリアンライグラスの混播を弊社上野幌育種場で試験した結果(第三表)その総収量は燕麦単播より五割以上増収の傾向を示し、飼料価値も優秀な成績が得られました。特に単播の青刈燕麦よりも、粗蛋白質の生産量が約二倍の増加となつており、飼料価、収量からみて有利なものとして認識して戴きたいものであります。

三 多収良質を目的とする青刈燕麦の混播に利用される品種と栽培方法

(一) 品種

暖地の秋播地帯で冬損や霜害の心配のない地帯では燕麦としては葉面積の広い前進ビクトリー一号とベッチではコンモン、パールベッチに赤花豌豆を、時に冬損の心配のある燕麦の秋播北限界付近では燕麦では雪印一〇一号、岡山黒、ベッチではヘヤリー、雪割ベッチに豌豆のオーストリアン

ウインターピースが適當であり、寒冷地の春播きとしては燕麦では前進、ビクトリー一号、さらに倒伏の心配ある地帯や土壤には強稈のスワロフスチール、多収晩刈りを目的とする場合は雪印一〇一号が適品種であり、ベッチはコンモン、豌豆は赤花または晩生多収なオーストリアンウインターピースが適當でしょう。そしてこれにイタリアンライグラスを混播します。

(二) 栽培法

温暖地の秋播きの場合は二〜三尺の小畦をつくり、反当り燕麦一〜一・五升に対し、ベッチは三〜四・五升、豌豆ならば三〜四升を〇・五〜一〇尺の広幅に播種します。

寒冷地の春播きでは燕麦一〇升、ベッチ一・五升、豌豆ならば三〜五升を一尺の畦幅に条播きし、温暖地、寒冷地ともにこれにイタリアンライグラスを反当り一封度を混播します。

施肥量は反当り堆厩肥四〜五〇〇貫、硫酸四〜五貫、過石五〜六貫、硫加一〜二貫を標準とし、荳科作物の生育繁茂を旺盛にしようとする場合は窒素肥料(硫酸)を幾分控へ目に施します。

播種期は温暖地では水田、または畑の裏作とされ、寒冷地では早春播種が有利です。

以上最近急速に栽培されてきた集約飼料生産に好適する青刈燕麦のよりよき多収良質を得るための混播について概略を述べましたが、今後の青刈燕麦の栽培に当つてはなるべく、単播をさけベッチ、豌豆などの荳科と、さらに禾本科の短期生育を期待で

国営農場ですら高級幹部すら自ら「われわれ職工は……」などといつてゐる。只暫定的に在来の企業者に対する圧迫緩和のために公私合弁の合作社というものが沢山ある。都市の市街に見る商店は悉くといつてもいい位公私合弁であり、小工場の多くもまた公私合弁だ。



公私合弁で賑わう広州の繁華街

これ等の公私合弁の事業は最初にその資産が評価される。そして毎年その五分に相當する金額が仕払われ、経営は希望により従来通り継続される。待遇は事業の種類とその人によつて一様でないが国としては出来るだけ高い待遇をするといふことであつた。従つて国家機関として国の統制に服し、価格の如きも勿論公定価格で、規正されるが、問題は資産に対する年五分の補償が五年七年十二年と三種の別はあるが、こ

きるイタリアンライグラスの混播を試みて
 いただきたいと思ひます。

(雪印種苗・上野幌育種場)

第一表 青刈燕麦と青刈デントコーンの組成

青刈燕麦 青刈デントコーン	水分		粗蛋白質		粗脂肪		無窒素 物可溶		粗繊維		灰分		生育状態 出穂期
	八八	八七%	一五	二五%	〇五	〇八%	九五	七%	五三	五四%	一四	一五	

第二表 青刈燕麦とデントコーンの飼料価生産量の比較

青刈燕麦 デントコーン	生育 日数	生草 一日当り 収量(反当)		粗蛋白質		粗脂肪		可溶無 窒素物		粗繊維		灰分
		七〇	八〇〇	二四	二〇	六四	六八	五八	七三	四三	六〇	

* () 内は反当養分生産量(単位貫)

第三表 青刈燕麦混播試験

混播区 (雪印一〇二号) 青刈燕麦 イタリアン ライグラス	播種量 (反当)	草丈 生育相	生育 日数	生草 一日当り 収量(反当)		粗蛋白質		粗脂肪		可溶無 窒素物		粗繊維		灰分	備考
				一〇升	一〇〇	二四	二〇	六四	六八	五八	七三	四三	六〇		

備考 () 内は単播区に対する収量割合

酪農家必携の良書案内

飼料作物栽培

の手引

改訂版(第四版)発売!

昭和二十九年三月初版発行以来皆様の御好評をいただき、その後第二、第三版と改訂増補して出版して参りましたが、この程更に大幅に内容を充実し、現代酪農家必携の書として発行発売致しておりますので御利用下さい。

売価 送料共 百円

草地改良

新版発売!

熱心なる全国酪農家よりの強い要望に応え各種利用目的に依する草地は如何になすべきかを實際事例に基き解説した新版書「草地改良・著眼と事例」を発売致しておりますので、「飼料作物栽培の手引」の姉妹篇として御愛読をおすすめ致します。

売価 送料共 百円

の年限で打切られることである。従つて商工業の経営者に対する国の補償は、最高の場合は価格の六割、最低は二割五分で打切られてしまうのであるから、経営困難であつたものは別として、手腕もあり資力もあり、隆々発展の業態にあつたもの等は、果してどんな心境にあるものか、尤も農村に於ける地主の如く、爾生の槍玉に挙げられて、生命も土地も失つてしまつたものに比べれば、比較の限りでないが、自由主義経済に生きて来た商工業者としては、農民の如くでないことだけは想像に難くない。

農業合作社

ソ連と中国は世界における二大共産国である。そして農業生産が農民の協同組合組織(ソ連はコルホーズ、中国は農業合作社)による集団経営と、国营農場とによつて行われていることも同様である。

しかしソ連が現実に見る中国の合作社と話にきくソ連のコルホーズとは「かたち」は同じ共同経営でも、その実態は雲泥の相違で、全く相反する阿極端といつてもよい。ソ連の実際を見て来た人は、例外なしにソ連は暗いという。農村といわず都市といわず……しかし中国は国内何処へ行つてもまことに明るい。私が直接語り合つたのは農民だが、われわれは最早開放された。われわれはもう自由になつた。権力の支配から免れ弾圧から免れ、搾取から免れ窮乏から免れた。合作社へ入つたお蔭で、十年以上も口にするこの出来なかつた豚肉も食えるようになったし(収入増加)夢に見ることも出来なかつた自由の世界で裕かな生活をする事が出来るようになったと、ほんとに喜びを顔に現わして語る。そして到る処で聞かされた言葉は、開放前と開